



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第22号(2008年8月1日)

「ポートフォリオの分散度合いとリターンの関係」

ポートフォリオの分散度合いとリターンの関係はどのようになっているのでしょうか。今回はポートフォリオの保有銘柄数とリターンの関係をみてみます。

Robert G. Hagstrom著、「The Warren Buffett Portfolio」で紹介されているシミュレーションを見てみます。

1980年代当時に米国株式市場で取引されていた1,200銘柄から、1)15銘柄、2)50銘柄、3)100銘柄、4)250銘柄から構成される4種類のポートフォリオを無作為に1種類につき3,000本、合計12,000本抽出して、10年間の平均年率リターンを算出しています。

保有銘柄数	1) 15銘柄	2) 50銘柄	3) 100銘柄	4) 250銘柄	S&P500
平均リターン	13.75%	13.87%	13.86%	13.91%	15.23%
標準偏差	2.78%	1.54%	1.11%	0.65%	
最低リターン	4.41%	8.62%	10.02%	11.47%	
最高リターン	26.59%	19.17%	18.32%	16.00%	

このシミュレーションから言えることは、保有銘柄数が少なくなればなるほど市場平均のS&P500よりも高いリターンを稼ぐ確率が高くなる一方で、S&Pよりも低いリターンを稼ぐ確率も高くなるということです。

しかしながら、S&P500よりも高いリターンを稼いだポートフォリオの数を比較してみると、15銘柄の場合808本、50銘柄の場合549本、100銘柄の場合337本、250銘柄の場合63本でした。保有銘柄が15銘柄のポートフォリオは約27%がS&P500よりも高いリターンを稼いだのに対し、保有銘柄数が250銘柄のポートフォリオはわずか2%しかS&P500よりも高いリターンを稼いでいません。

以上のシミュレーションから、銘柄数を絞って厳選投資を行うことが、市場平均を上回るリターンを獲得する確率を高めるために有効な手法であることがお分かりいただけたでしょうか。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。